

[ 2 番 杉村美桜さん登壇 ]

○2番(杉村美桜さん) 杉村美桜です。よろしく  
お願いします。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

私は、中学生のころに祖母の介護を経験し、介護の難しさと大変さを知りました。当時の私と両親は正しい介護の仕方を知らずにいたので、介護のことをもっと早く学んでいればよかったと後悔しました。高齢化が進んでいる今、私は、学生の間から介護の仕方を学んでいく必要があると強く感じました。

そこで、島田市に介護のことを学べる場のようなものはあるのかと思い、もし学べる場がないのであればつくってほしいという願いを込め、1、介護対策について、以下の質問をさせていただきます。

(1)現在、島田市にはどのような介護サービス事業所があるのでしょうか。

(2)高齢化が進行する中、介護に関する相談が増えていくものと思われま。そうした場合には、市はどのように取り組んでいるのでしょうか。

(3)子供のころから介護についての知識を得る必要があると考えますが、市としてどのように考えているのでしょうか。

(4)少子高齢化に伴い市民が安心していくために、今後の展望をお伺いします。

[ 2 番 杉村美桜さん発言席へ移動 ]

○議長(村田千鶴子議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) 杉村さんの御質問についてお答えをいたします。最初に私から1の(1)(2)(4)の御質問について答弁申し上げ、1の(3)の御質問については教育長から答弁させますので、よろしく願いをいたします。

それでは、1の(1)の御質問についてお答えをいたします。市内の介護サービス事業所は、6月末現在、150カ所あります。介護サービスは、そ

の方の状態に応じてさまざまなサービスが受けられ、主なものは4つに分けられています。

1つ目は、施設に通い、食事や入浴などの日常生活上の介護、機能訓練などを受ける通所系サービス事業所が44カ所、2つ目は、ホームヘルパーなどに自宅へ来てもらい、身体介護や生活援助を受ける訪問系サービス事業所が23カ所、3つ目は、認知症の方が介護職員と共同生活を送るグループホームが12カ所、4つ目は、自宅での介護が困難となった高齢者が入所する特別養護老人ホームなどの施設が12カ所あります。

その他、一時的に施設に泊まる短期入所生活介護事業所や、通い・訪問・泊まりなどを組み合わせ複合的なサービスを提供する小規模・多機能型居宅介護事業所、ケアプランを作成する居宅介護支援事業所などがあります。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。介護に関する相談は、長寿介護課や各支所のほか、市内の中学校区ごとに設置されている6カ所の地域包括支援センター、通称高齢者あんしんセンターで対応しております。高齢者あんしんセンターは、地域の中核的な拠点として、高齢者やその家族からの相談を総合的に受け付け、問題解決に向け、関係機関と連携しつつ継続的な支援を行っています。

なお、センターの周知については、市のホームページや毎月の広報しまだへの掲載などにより、いつでも連絡先や活動内容等がわかるように、情報提供に努めております。

次に、1の(4)の御質問についてお答えをいたします。市では、高齢者の誰もが生涯を通じて生きがいを持ち、安心して暮らすことができるように、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを行っています。このシステムは、医療・介護の専門職や地域に暮らす人たちが協力して、体が弱くなっても、認知症になっても、可能な限り住みなれた地域で自分らしく健やかで幸せに暮ら

せるまちの実現を目指していくものです。

現在、高齢者保健福祉計画を策定し、介護保険事業を含む福祉施策を進めています。その中の基本施策の1つに介護家族への支援を位置づけ、介護技術や知識の習得を目的とした家族介護教室などの事業を展開しております。今後も引き続き家族の介護不安や介護負担の軽減に努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

引き続き教育長から答弁させます。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

〔教育長 濱田和彦登壇〕

○教育長（濱田和彦） 市長に続き、杉村さんの1の(3)の御質問についてお答えします。小学校では、総合的な学習の時間等で、高齢者に寄り添う介助の方法について学んでいます。中学校においては、一部の生徒が介護施設において職場体験を行っています。さらに、令和3年度に施行される新学習指導要領では、中学校家庭科において、介護の基礎に関する体験的な活動を通して、介護を実践的に学ぶことが示されています。

以上、答弁申し上げます。

なお、再質問については、担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしく願いいたします。

○議長（村田千鶴子議員） 杉村さん。

○2番（杉村美桜さん） 御答弁ありがとうございます。

それでは、1の(2)から再質問させていただきます。高齢者あんしんセンターの周知について、市として尽力されていますが、私たち高校生やその家族になかなか浸透していないことも現実だと思えます。もっと市民に周知を図るべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 畑健康福祉部長。

○健康福祉部長（畑 活年） 高齢者あんしんセンターの取り組みに対します御質問なのですが

も、こちらの周知につきましては、先ほど市長のほうから答弁ありましたとおり、市のホームページあるいは広報しまだの掲載のほか、高齢者あんしんセンターの職員が、毎月開催されます民生委員・児童委員地区定例会、こうした会議に出席をしまして、業務の紹介や介護予防のお知らせなどを積極的に行って、地域との連携に努めているところでございます。

また、小学生や高校の美術の皆さんが作成いたしましたポスターを、スーパーやコンビニエンスストア、あるいは書店や公会堂等にも掲示したり、さらには、高齢者が生きがいの活動を行う場でありますいきいきクラブ、あるいは触れ合いの活動の場、また、各地域の居場所や自治会の役員会など、そうした場でもPR用のチラシを配布して、周知に努めているところでございます。

今後につきましても、こうしたさまざまなツールを使った広報のほか、高齢者あんしんセンターがさまざまな機会を捉えて各地域の中に入って、周知・啓発にこれまで以上に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 杉村さん。

○2番（杉村美桜さん） ありがとうございます。

次に、もう一点、1の(2)に関連して再質問します。自宅で高齢者の介護が必要になったとき、どこで介護の仕方を教えてもらえるのでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 畑健康福祉部長。

○健康福祉部長（畑 活年） 高齢者への介護には、ベッドから起こすとき、あるいは車椅子のほうへ移動するとき、また、食事をするときなど、さまざまな場面がございまして、それらの介護を高齢者の状態に合わせて提供する、こうした必要がございまして、そうした介護の仕方を学ぶには、先ほどの答弁にありましたとおり、家族介護教室に参加していただくほか、高齢者の状態を把握しているケアマネジャー、あるいは介護サービスの事業

所の職員に相談することも一つの方法であると考えております。

高齢者や家族の方は、自宅で介護について一人で抱え込まずに、まずはお近くのケアマネジャーなどがある高齢者あんしんセンターへ御相談をしていただければと考えております。センターでは、本人の希望や心身の状態に合った必要なサービス、こうしたものを関係機関と連携をとり合って提供させていただくという形になりますので、遠慮なさらずにいろいろと相談をしていただければと考えております。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員） 杉村さん。

○2番（杉村美桜さん） ありがとうございます。

次に、1の(3)について再質問させていただきます。総合的な学習の時間では、介助についてどんな学習をしているのでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） まず、小学校ですが、小学校における総合的な学習においては、介助の仕方というよりも、お年寄りについての理解ということが中心になっていると思います。高齢者の気持ちに寄り添った介助ということにつながるのだとは思いますが、例えば、ヘッドフォンをつけて聞こえにくさ、それから、視野が狭くなる特殊な眼鏡を装着しての視野の狭窄についての理解、それから、手足におもりをつけて階段の上がりにくさとか、そのような体験をするようなことを学んでいます。そうすることが、その後の介助の理解にもつながるのではないかと考えています。このような高齢者疑似体験の学習が主になっています。多くの学校でこのような学習をしています。

中学校においては、先ほども答弁にありましたように、介護施設等で実際に体験することもあります。それから、一部の学校においては、触れ合いの場とか、そういうところに出かけてい

って、子供たちがお年寄りと触れ合う中で理解を深めているということも行われています。

以上、答弁申し上げます。

○議長（村田千鶴子議員） 杉村さん。

○2番（杉村美桜さん） ありがとうございます。

次に、もう一点、1の(3)に関連して再質問します。介助における公的なサービスについて学ぶことはあるのでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 濱田教育長。

○教育長（濱田和彦） 今言った御質問については、中学校で主に学んでいます。中学校の家庭科、2年、3年生において、デイサービスセンターの施設があることや、在宅サービス等やケアマネジャーの派遣等のサービスがあることを学ぶようになっています。

また、中学校の社会科、これは3年の公民の授業になりますが、介護保険や地域公共団体から受けられる介護サービスを学ぶことになっています。

以上、答弁申し上げます。

○議長（村田千鶴子議員） 杉村さん。

○2番（杉村美桜さん） ありがとうございます。

最後に、自分の意見を述べさせていただきます。私が中学生のときに悩んでいた介護のことについて、女性議会を通じて伝えることができ、本当によかったと思います。ありがとうございます。

学生に限らず、まだ多くの人が介護の経験がないと思われます。しかし、今後は介護が非常に重要になってくると思いますので、今回、そういった方々のためにも、市では多くの情報を発信していることや、彼らをサポートするためのサービスがあることを知ることができてよかったです。

本日学んだことを今後の生活に生かし、もし自分と同じような立場の人がいたら、市で行われている介護サポートの情報などを伝えていきたいです。子供からお年寄りまでの人たち全員が安心して生活できる未来は、こういった機会を通じて一歩一歩近づいていくと思いますので、今後に期待

していきたいです。

以上で私からの発言を終わります。本日はこのような貴重な経験をさせていただきまして、ありがとうございました。

○議長（村田千鶴子議員） 染谷市長。簡潔にお願いいたします。

○市長（染谷絹代） 杉村さん、ありがとうございました。私も、きょうの質問を聞いていて1つ思ったことは、広報はまだ、ホームページ、いろいろなところで情報の提供に努め、周知に努めているといっても、関心のある杉村さんにさえも情報が届いていなかったということが事実であります。

ですから、face to faceでしっかりと一人一人の市民の方々に情報が伝わるように、さらにその方法について検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。